

指導事項を明確にした小学校国語科の授業づくり(10月)

国語科では「教材の内容を詳細に教えること」ではなく、「言葉で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」が大切です。

今月の指導のポイントは…

叙述をもとに想像して読むこと

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
C 読むこと	ウ 場面の様子 について、 登場人物の行動 を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意 しながら、 登場人物の性格や気持ちの変化情景など について、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面 についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
教材	サラダでげんき(1年) 名前を見てちょうだい(2年)	サーカスのライオン(3年) ごんぎつね(4年)	注文の多い料理店(5年) 海のいのち(6年)

低学年の段階から、登場人物の行動を中心にするなど **根拠となる叙述を明確にし**ながら、想像を広げて読むことができるように指導することが大切なのです。

「何となくそう思う」という子供の発言を許していませんか？

今月、教室で使いたい一言

「どこにも書いてありません。」

教師が「どこにも書いてないよ。」「どの文からそう思ったの?」と問い続けていると、子供が発言する際に自発的に根拠を示すようになります。

太一が瀬の主を殺さなかったのはなぜなのでしょう。

「おう、ここにおられたのですか。」という言葉から考えると、太一は瀬の主のことを死んだお父さんの身代わりのように思ったからだと思います。

子供たちの意見が「何でも正解」にならないよう、**叙述にもどって検証**することも大切です。

ぼくもはじめはそう思ったけど、その続きに **「こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さな**

つまり太一は、瀬の主を殺さなかったというよりは、**お父さんだと思い込んででも殺したくなかった**ということなのかな？それはなぜだろう…?

★一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係づけられるようにしましょう。

太一は与吉じいさの**「千びきにーびきでいい」**という教えをずっと守ってきたから、きっと命の尊さを理解しているはず。母の太一への思いも関係があるかもしれないな…。

